

協同学習形式の散文理解における役割と類推の効果 (II)

Effects of collaborative scripts on text learning and transfer (II).

光田 基郎

Motoo Mitsuda

聖霊女子短期大学

Holy Spirit Women's Junior College

Mitsuda@seirei-wjc.ac.jp

Abstract

This article shows effects of collaborative scripts on formal quality of argumentation in group discussions.

Keywords —collaboration, comprehension, script

目的：協同学習形式による散文理解に関しては、内容要約・説明者役とその傾聴・ファシリテーター役の役割分担による理解促進(光田, '14) が指摘された。本報告は、説明者とその傾聴・ファシリテーター役各2-3名で構成した小集団討議と、役割を設定しない小集団討議での類推と集団内対人態度の差を検討し、先行オルグの寄与と3集団間の差異を指摘する。

方法：(a)「No.2 の人間学」(プレジデント誌'91)の「組織のNo.2 は今のトップと一体化して次のトップの気配を否定すべき」の34文、「源義経は鎌倉政権のNo.2の役割を無視して破滅、豊臣秀吉の弟はマネージャー役で政権を支え、足利尊氏の弟は無私の実務家でも兄の側近との対立で失脚、三本の矢の毛利家3兄弟は内部結束を考えて滅亡を避け、周恩来はトップの補佐役で肅清を免れ、野心家の黒田如水は秀吉に警戒される」内容を大学生39名に画面で閲読させた。小集団での内容討議後にその逐語・推理再認検査を6項、(b)下位技能(閲読と無関係の類推、比喩理解、d, c, e, b, ?の文字系列の推理、「松、杉、桧、縦→横」の過剰類推ほか)の選択反応入力(c)上記の登場人物相互間の類似度評定とその確信度の5段階評定値のマウス入力を求めた。(d)集団内対人態度は、思考動機、集団への同調への疑問・自分の内面への配慮、討議意欲、達成動機、集団内と個人別にリーダーシップ、フォローアップ及び、課題志向性と親和性の評定を求めた。

(ロ)参加者・手続き：ノースアジア大生39名が端末画面で個別に参加。上記の文を1文ずつ参加者のペーシングで閲読。材料文の閲読後に上記の小集団内で説明者が内容の説明後に内容討議を15分間行なってから再認と下位技能検査を行った。参加

者の1/3は上記の内容の説明者の役割、1/3は説明の傾聴とそのファシリテーターの役割、残る1/3は別の集団で上記の役割のない対等の立場で内容討議を行った。上記3群の半数は材料文の閲読に先立って「No.2は今のトップと一体化・・・」の先行オルグ提示、半数は無教示群の計6群に割り当てた。

結果：(a)参加者自身の討議意欲と集団全体のフォローアップ評定値の相関を求めて2要因共分散分析して、討議意欲は教示条件で傾聴・補足役>説明役=無役割教示、フォローアップは不等号が逆の効果を示す。討議意欲と自己評価されたリーダーシップの相関も傾聴役は教示<無教示の相関を示し、役割を指定しない全員対等の集団内では逆の相関関係を得た。自己評価されたリーダーシップと思考動機の相関は、傾聴役は教示>無教示並びに教示の主効果を示す。以上より教示と集団内の役割が討議のリーダーシップ・フォローアップを促進させる可能性と限界が示唆された。(b)集団内対人態度と散文理解の下位技能との相関を求めて2要因(役割と教示)共分散分析して、類推活性化は傾聴・補足役=説明役>対等の主効果と対等条件下で教示>無教示となる交互作用を得た他、上記の過剰類推と人物の分類基準理解との相関は説明役と傾聴役のみ負相関、対等では正相関を示す交互作用を指摘した。以上、集団内の役割による類推の活性化とその効率化を示した。(c)集団内の親和性評定値と文字系列(推論)の相関係数値は教示下で説明役=傾聴役>対等、無教示条件下で逆の結果を示し、共分散分析して教示>無教示の結果のみを指摘し得た。以上、傾聴役の参加者のみ、不完全な初期理解の共有に伴う集団内葛藤を教示により低減し得る。

結論：知識利用のスキプトが合議の質を規定する。

引用文献：光田基郎 2014. 日本心理学会大会発表抄録。